

うたごよみ 曾於文藝

「題字」

末吉文化協会会員
瀬戸口 淳民 氏

俳句

千草俳句会

久住路や友に誘はれ冬もみじ

浜田 郁子

冷やかに母の点滴見つめる子

東郷 君代

飛び立ちし鴨の一群空青し

川辺 良彩

大隅俳句会

南国に大小並ぶ雪達磨

田原 恵子

雪搔きやひとりのみちを細く掃く

河南 ミホ

久々に豊の前兆窓に雪

野上田 憲緒

短歌

末吉短歌会

久に会ひし歌友の見舞ひに饒舌
となりたる吾を止められずゐる

田之上 絹子

大隅短歌会

年女シャツキリ凜と残り生を
歩け歩くと初夢囁す

小野 清子

境界の太木伐られ母が顕つ父の
遺せし八畝の山の

竹内 娃子

枯れし葉を庭一面に散らしつ
つ虎落笛など吹きつつ過ぐる

加塩 秀子

つつしみて慰霊の玉串捧ぐれ
ば特攻逝きし友の顔顕つ

渡辺 哲夫

財部短歌会

山茶花のピンクの満開退院後
初に目に止むああ我が家かな

瀬戸口 芳子

庭先はどうだんツツジ千両紅
葉等が競ふ赤の劇場

児玉 次雄

美味なさむとやさしく揉めばつる
し柿赤子の手のごとやは肌となり

井上 澄子

弱気なる心励まし高齢者講習予
約しかと電話す

富山 治雄

けふまでは大病知らず生き来し
を亡き父母に謝し七十路坂ゆく

杉村 リカ

洪柿を慣れぬ手つきで皮を剥き
小春日和の軒端に吊るす

川俣 若

師走来る庭木の手入れ済ますれ
ば吾の一年終らんとす

橋口 貞男

花心菜まいりましたとうなだれ
て真白き布の大霜被る

祝迫 道雄

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

おじやんせち 内心から嬉し
良か挨拶

森山 厚香

長挨拶ち 御馳走も焼酎も
温るけなつ

田代 勝泉

左様ならち 別る挨拶ち
同士しや涙

古川 一幹

大隅薩摩狂句会

連立で 小め党ん駄駄れ
芽も萎えつ

神宮司 素水

芽も出らじ 我慢った揚げ
首びけなつ

新屋 涼子

芽も出らじ 辞めたが家でな
天下様

山田 竜生

(市報1月号P20曾於文芸大隅
薩摩狂句黒木義士氏の句
下句の「泣っ下い」を「涙下い」
に訂正方お願いします。)